



# 小樽南ロータリークラブ会報



**1960年創立**  
昭和35年2月5日

# 10

2021年11月5日発行  
通巻 第2954号

Rotary 2021-2022年度19テーマ

**2021-2022年度 RI第2510地区目標**

- 世界に奉仕を 地域には感謝を
- 不忘感謝先人偉業

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

**今週11月5日金のプログラム**

- 卓話：米山奨学生 尚潔氏 (札幌幌南RC)

**来週11月12日金のプログラム**

- 卓話：京谷会員

**再来週11月19日金のプログラム**

- 卓話：小林会員

●例会場/オーセントホテル小樽 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂2-15-1(オーセントホテル内) TEL.0134-27-8080 ●Club Homepage URL <http://rid2510.org/otarusouth/>

●第10回例会報告(10月29日金) ●卓話：小樽市総合博物館 館長 石川直章氏

## ■ロータリーソング【日も風も星も】 ■会長挨拶【野村会長】

ご案内のとおり、本日は小樽市総合博物館館長、石川直章様をゲストにお迎えしての例会となりました。コロナ禍でなかなか外部からのゲストをお迎えすることが出来ず苦慮していたところではありますが、ようやく実現することができました。

7月、リモートで卓話をしていただいた迫市長のお話でも触られていましたが、北海製罐小樽工場第3倉庫保全、及び活用について、本日はお話をさせていただきます。石川館長は本年1月に立ち上がりました、第3倉庫活用ミーティングのメンバーでもあり、倉庫の保全、活用の展望について有意義なお話が頂けるものと存じます。

後程、改めて濱本委員長よりご紹介がありますが、本日も宜しくお願い申し上げます。

## ■幹事報告

- 例会終了後理事会を開催します。
- 函館五稜郭クラブ地区ガバナーより大会の礼状が届いています。

●ポエムコンクールの作品集が届いております。掲示しています。御覧ください。

## ■出席委員会

令和3年10月29日(金)

会員総数 61名 本日の欠席者 0名  
理事会決定により100%出席

リモート出席者 7名

山下、佐藤(友)、保知、小原、地山、中山、田中



## 10月14日 宮古島RC訪問

小林会員、湊会員が沖縄、宮古島を訪れ、宮古島RCを訪問しました。宮古島は人口5万6千人で、山も川も無いのにダムがあるということで世界でも珍しい島です。会員交流し親睦を深め、バーナー交換をしてきました。



## ■まごころ箱 いつも有難うございます!

**野村会員** 石川館長、ご多用の中卓話にお越し頂き誠にありがとうございました。  
**宮川会員** 誕生日祝。長らくの欠席でした。

## 入金集計額

【令和3.7.2~令和3.10.29】 10月29日分 6,000円

合計 **434,000円**

## ポリオ撲滅募金

野村会員、斎藤会員、吹越会員、見延会員、米山会員、福島会員、高木会員、広瀬会員、工藤会員、加藤会員、新倉会員、廣部会員、三栖会員、白石会員、紺谷会員、桂 会員、濱本会員、大淵会員、前川会員、阿部会員、小林会員、伊藤会員、太田会員、京谷会員、林 会員、湊 会員、盛 会員、松尾会員、浅村会員、拝田会員、堀内会員、佐藤会員、松浦会員、山村会員、宮川会員

ポリオ根絶まであと少し。私達も応援します。  
合計 **36,000円**

卓話

# 北海製罐 第三倉庫の位置づけ



小樽市総合博物館 館長  
石川直章氏

北洋漁業と「北海製罐」

日露戦争後、カムチャッカ半島付近などの「北洋漁業」が盛んとなる。

1913年（大正2年）- 函館の提商會によりカムチャッカにオゼルナイ製缶工場設置。

1914年（大正3年）- 第一次大戦勃発によりオゼルナイから函館に移動。  
この時点で全国の缶詰用缶の80%以上を生産



第3倉庫の建築的な位置づけ

鉄筋コンクリート造 4階建  
全長約 100m、奥行 手宮側約 20m、札幌側 15m  
各階に 5つの収納室（倉庫）

小樽における大正期の鉄筋コンクリート造  
旧三菱銀行小樽支店（現 小樽運河ターミナル）、  
旧北海道拓殖銀行小樽支店（現 似鳥美術館）、  
旧第一銀行小樽支店（現 ミユキソーイング株式会社）その中でも第3倉庫は最大

第3倉庫の建築的な位置づけ

荷物を合理的に運搬するため  
エレベーター、スパイラルシュート、階段  
→運河側の外壁にまとめて配置  
→室内に広い収納空間と長い直線通路を確保

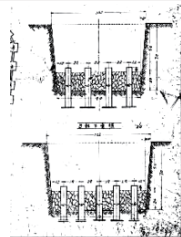
荷重が一番かかる 1階の柱 一辺 90cm四角形  
2階と3階は 81cm、4階は51cm

柱の荷重を支える基礎の下  
→丸太を緊密に埋め込む設計

第3倉庫の建築的な位置づけ

埋立地に建つ倉庫 基礎の設計には細心の注意  
主要なコンクリートの基礎は、一辺 3mの四角形

その下に 25本の木杭が 58cm 間隔で入る



そもそも「第3倉庫」は文化財として貴重なのか？

大正時代の大型RC建造物（技術的側面）、運河沿いの景観形成（歴史的景観的側面）  
大型構造物とスパイラルシュート（産業遺産としての側面）  
多喜などの小説や絵巻の舞台（ストーリー性）

大正時代、RCで重要文化財指定 全国で20件  
大谷派本願寺函館別院（本堂・鐘楼・正門）、本堂は大正4年（1915年）RC  
面積1,115㎡ 最初のRC寺院として評価？

文化財は「公開」が原則。  
営業行為であっても一般来館者が立ち入りできれば「公開」  
ex 豊平館 日本橋高島屋 三井銀行本館など  
（旧奈良監獄 改修中）  
ただし、公開するべき人々には「将来の市民」を含む。

→現在の世代で消費してしまわないための「保存」「管理」が必要＝資本原理を越えた「担保」が必要

活用計画の付帯事項に、文化財としての保存について方向性を記載  
→指定等の可否は未定であるが、市民に3号倉庫の重要性をアピールできる。

